

テーマ別講師研究会成果報告書

研究会名	教育方法研究会	代表者名	井上真
------	---------	------	-----

■研究成果

1. 研究テーマ

「読む」という営為がいかなるものかを解明し、それがいかに獲得可能かを究明する。

2. 研究に至る課題意識

「読む」という営みは、あらゆる教科・科目で必要になりながら、その実態が見えにくいものである。それは、「読む」ということが、きわめて主観的なものであると同時に、その結果には客観性を求められるという逆説性によると思われる。こうした逆説を踏まえながら、教室のなかで、生徒を「読む主体」へと変容させていくにはどうすればよいかを究明したい。

3. 研究の進め方

課題図書を指定し、月に一回の読書会形式で進めた。

定期的に対外的なイベントを開き、ゲストや一般参加者の知見に触れることのできる機会を作った。

初年次教育学会に参加し、内容を共有した。

4. 具体的な成果

読書会を通じて、「読む」の概念的な把握を試みた。それは以下のようなものである。

「これがあれだ」理論、蓮實的「問題」、ストック情報とフロー情報、シニフィアンの抑圧、現代文＝土偶、受験生における精神病／倒錯／神経症、翻訳→意味の産出＝読む？、読む＝他者の言葉を自分の声で聴く→「読む」の持つ同化作用と異化作用、私的な読書（消費に留まる）と公的な読書（議論につながる）／考察と批評、言語の超越性——「型」そして「文字」（課題図書との関連は添付した活動報告を参照されたい。）

各年度の終わりに、対外的なイベントを行い、研究成果を報告した（イベントの概要は活動報告に掲載した）。

特に3年目は、研究員のうち3名が、研究会への参加を踏まえた実践事例を報告した。

その様子は以下の URL で見ることができる。

https://www.youtube.com/playlist?list=PLHko1mdp2SBMBvsQtg-Y1Co_Qtvqoqnvs

また、研究員の一人が初年次教育学会でポスター発表を行った。具体的な内容は添付したレジュメを参照されたい。